



待ちに待った20歳

思い出に花咲いた148名の成人者



一月十五日町民会館で、恒例の成人祝賀会が開かれ、晴れて一四八名の若者が大人の仲間入りをしました。

成人を代表して椎名正憲さん(橋場)が「成人として恥じない人間となるよう力の限り努力することをお誓いします」と感謝の意を述べ、意見発表では五

名の方が力強く、将来への決意を発表しました。

若者たちはこの日をどんなに待ちわびたことでしょう。思い出話に花を咲かせる者、晴れ姿を写真に収める者など、会場は明日の光町を担う若者たちの喜びの声であふれていました。

(順不同)

二十歳になって思うこと

「二十歳」の誕生日を迎えたとき、私は今までとは違った喜びと、大きな不安を感じました。二十歳になると、法的にも社会的にも「大人」として扱われるようになります。参政権が与えられることにより、選挙権が与えられたり、また、お酒やタバコを飲むことが認められるなど、二十歳未満にはない権利や義務が一度に私たちに与えられます。そして、このように自分の存在が、社会的に認められるようになること必然に、自分の行動にも責任がかかってきます。

今まで私は、「まだ子供だから」「まだ学生だから」と言っただけで両親をはじめ、多くの方が甘え、その暖かく保護してくれる中で何不自由なく育ってきました。それだけに「大人」としてこの社会の荒波に投げ出され、それを乗り越えていけるか不安でなりません。しかし、これからは自分の行動に責任を持ち、少しでも社会に貢献できるような人間になりたいと思っ



辻 高橋 淳子 さん

飲みません。しめますベルトと気のゆるみ。